

2020 自己点検・自己評価報告書

2019年度実施分に対する評価

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

- 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか
- 1-2 学校の特色は何か
- 1-3 学校の将来構想を抱いているか

基準 2 学校運営

- 2-4 運営方針は定められているか
- 2-5 事業計画は定められているか
- 2-6 運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか
- 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
- 2-8 意思決定システムは確立されているか
- 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

基準 3 教育活動

- 3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応するニーズに向けて正しく方向付けられているか
- 3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか
- 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか
- 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか
- 3-14 授業評価の実施・評価体系はあるか
- 3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- 3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- 3-17 資格取得の指導体制があるか

基準 4 教育成果

- 4-18 就職率（卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか
- 4-19 資格取得率の向上が図られているか
- 4-20 退学率の低減が図られているか
- 4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

基準5 学生支援

- 5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
- 5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
- 5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
- 5-28 保護者と適切に連携しているか
- 5-29 卒業生への支援体制はあるか

基準6 教育環境

- 6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 6-32 防災に対する体制は整備されているか

基準7 学生の募集と受け入れ

- 7-33 学生募集活動は、適正に行われているか
- 7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
- 7-36 学納金は妥当なものとなっているか

基準8 財務

- 8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか
- 8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

基準9 法令等の遵守

- 9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- 9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努め公開しているか

基準10 社会貢献

- 10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
- 10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか。	明確に定めている。	学則に謳うとともに、明確に定められた理念・目的・育成人材像は、学校のガイドブックに記載しホームページで学生・保護者に公開している。	
理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか。	持っている。	各教科のカリキュラムや就職指導などが、理念・目的・育成人材像に沿ったものとなるよう職員会議で計画をたて協議決定するなどし、工夫・実現を図っている。また、学校関係者評価委員、教育課程編成委員の意見等を参考に取り入れている。	
理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか。	毎年、見直しを行っている。	時代変化に応じたものとなるよう職員会議で協議決定している。また、専門分野の意見を取り入れられるよう組織的に協議を行っている。	
理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか。	教職員・学生・保護者に公表している。	教職員・在学生・保護者に対しホームページにて公開している。	これからも教職員・学生・保護者に周知していく。また、本自己点検の公表により、理念・目的・育成人材像を広く公表していく。

1-2 学校の特色はなにか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の特色として挙げられるものがあるか。	充実した最新設備機器と、レベルの高い教育内容。 現場に即した実習や演習を実施。	施設設備、機器を揃えるとともに、学生人数に対して十分な教材数を揃えている。 メーカーにとられない幅広い車種を実習に使用している。自動車教員の半数以上が自動車整備士1級の国家資格取得者であるなど自動車整備士の指導者としての資質が高い。	教員のうち自動車整備士1級未取得者については、資格取得に向けて勉強中である。既に取得している者については、さらなる知識・技術の習得のため本校の教育内容に即した高度資格を取得するなど各自研鑽中である。

1-2 学校の特色はなにか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の特色として挙げられるものがあるか。	充実した最新設備機器と、レベルの高い教育内容。 現場に即した実習や演習を実施。	施設設備、機器を揃えるとともに、学生人数に対して十分な教材数を揃えている。 専門分野に対する高い資質に加え、豊富な現場経験を備える人材を教員として有している。グループ内の幼稚園・保育園の教育指導内容を参考に実践的な内容が学べる独自科目を取り入れている。	教材については、必要に応じて随時補充していく。本校の教育内容に即した高度資格の取得及び、担当教科のさらなる知識の習得へ向けて各自研鑽中である。

1-2 学校の特色はなにか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の特色として挙げられるものがあるか。	充実した設備機器と、レベルの高い教育内容。 現場に即した実習や演習を実施。	充実した施設設備、多様な福祉機器を揃えるとともに、学生人数に対して十分な教材数を揃えている。 専門分野に対する高い資質に加え、豊富な現場経験を備える人材を教員として有している。福祉施設との連携により実践的な内容が学べる独自科目を取り入れている。	教材については、必要に応じて随時補充していく。教員は本校の教育内容に即した担当教科のさらなる知識の習得へ向けて各自研鑽中である。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。	自動車分野への就学・就職は、世界（日本）の景気動向に左右されやすいため、中期的な将来構想をたてにくい点もあるが、将来的な構想は抱いている。	地域や時代の要請に応える高等教育機関となるよう今後も構想をたてていく。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。	保育の職場は、慢性的に人材不足となっているのが現状であるため、改正認定こども園法も視野に入れ、より現場に即した人材を輩出するよう学校として構想を立てて教育を実践している。	地域や時代の要請に応える高等教育機関となるよう今後も構想をたてていく。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。	介護の職場は、慢性的に人材不足となっているのが現状であるため、より現場に即した人材を輩出するよう学校として構想を立てて教育を実践している。	地域や時代の要請に応える高等教育機関となるよう今後も構想をたてていく。

基準 2 学校運営

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか。	定められている。	各年度初めに年間行事計画書を作成し、職員会議で協議決定している。定期試験や各種検定試験、講習など在校生全員の取得を目標に、また、就職に関しても卒業生全員就職を目標にして運営方針を定めている。	
学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか。	各教職員に伝わっている。	校務分掌、教員としてのマニュアルなど必要な書類を全教職員に配付している。	
学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか。	整備されている。	就業に関する諸規定集を作成し、全教職員に配付している。	

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか。	定められている。	各年度初めに年間行事計画書を作成し、職員会議で協議決定している。定期試験や各種検定試験、講習など在校生全員の取得を目標にあげて実行している。	
学校は事業計画に沿って運営されているか。	運営されている。	事業計画に沿って運営することはもちろん、事業が実施されるたび職員会議で内容の再検討をするなどし、よりよい事業運営ができるよう図っている。	

2-6 運営組織や意思決定機関は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
運営組織図はあるか。	ある。	組織図により、各担当部署の業務が円滑に行われている。	
運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか。	なっている。	不具合があった場合、または現状のままでは不具合が生じると予測される場合、事態に応じて組織の見直しを図っている。また、学生に関することで教職員全体での決定が必要な場合は、臨時職員会議や学生支援会議などを開き協議・決定している。	
組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか。	明確になっている。	校務分掌、組織図を作成し、職員会議で協議・決定している。	
運営組織や意思決定機能は、規程等において有効に機能しているか。	機能している。	運営組織図があり、組織図に基づく校務分掌がある。伺書兼稟議書には決定区分が示されている。	

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか。	行われている。	資格や経験など学校運営の条件に合う人材を確保できている。教職員は、自らの資質を向上させるため上級資格取得に向け、また、担当教科のさらなる知識の習得へ向けて研鑽中である。また、能力及び指導技術向上のための教職員研修も年間スケジュールをたてて実施している。	課題は特に無いが、学校運営に必要なと思われる人材育成は重要であるため、今後も努力を続けていく。
人事考課制度は整備されているか。	整備されている。	毎年、4月、10月、年度末に全教職員の面談を実施し人事考課を行っている。	
昇進・昇格制度は整備されているか。	整備されている。	毎年、4月、10月、年度末に全教職員の面談を実施し該当者は昇進・昇格としている。	
賃金制度は整備されているか。	整備されている。	勤務規程や給与規程など全教職員に学園の規程を配布し、その規程に沿って実施している。	
採用制度は整備されているか。	整備されている。	採用・不採用の基準は、求人票に沿って実施。雇用時の学校への提出書類や解雇についての定めも規則規程で明記されている。	
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	県・国に提出する学校基本調査の書類内にも教職員情報明記の文書があり、明確に把握している。国土交通省及び厚生労働省の定める学生人数により教員数を確保、配置。	

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教務・財務等の意思決定システムは確立されているか。	確立されている。	意思決定が必要な際には、伺い書、稟議書、報告書などを利用するなどしている。	
意思決定プロセスのポイントとなる仕組み（会議など）が制度化されているか。	制度化されている。	毎月、職員会議を実施。議題ごとに参加者全員が意見を述べられるよう司会者（教職員が持ち回りで担当）が運営している。	
意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか。	行われている。	組織体制を明確にして人材を配している。	

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
業務効率化を図る情報システム化がなされているか。	情報システム構築がなされている。	教職員が共通使用できる専用サーバの開設により、より早く情報を共有でき効率的である。	効率良く運用できていない部分があるため、システムの改善作業を随時行う。
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	なされている。	学校評価、授業点検、学校生活アンケートをホームページで公開している。学校関係者評価委員による学校評価をホームページに公開している。	情報公開に関して高校や就職先へもさらに良い状態になるよう今後も努力を続けていく。

基準 3 教育活動

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界の時代ニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、最新の技術、知識を兼ね備えた人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	年間 36 週の授業時間による業界ニーズを踏まえた、独自科目を設置している。また、年 2 期制で各々定期試験を実施している。修業年限 2 年間で 2 級自動車整備士を取得できる。2018 年度入学生までは修業年限 4 年間で 1 級自動車整備士が取得できる。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界の時代ニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。保育園、施設への実習、研修により、知識、技能等、現場からの意見をカリキュラムに反映し、人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	年間 1 年次 36 週、2 年次 33 週の授業時間による、業界のニーズを踏まえた独自科目を設置している。また、年 2 期制で各々定期試験を実施している。保育士を養成するためのカリキュラムが組まれている。なお、2015 年度より幼稚園教諭免許取得については選択制として行っている。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界のニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。福祉施設との連携により、現場からの意見をカリキュラムに反映し、技術、知識を兼ね備えた人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	1年生年間36週、2年生年間36週の授業時間による業界ニーズを踏まえた、独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を行っている	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	策定されている。	建学の精神、学科ごとの教育目標、その他、目標を立て、年間時間割に合わせ、コマシラバス、教案がある。また教育課程編成委員会を年に2回開き意見を活用している。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせ内容設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。島根日産自動車株式会社、島根中央ホンダ販売株式会社、業界との連携により、カリキュラム内容も見直されている。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせ内容設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。育英北幼稚園、育英保育園、松江子子育て部等の意見を取り入れ、専門的な実践力、応用力を身につけるためにカリキュラムが組まれている。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせた内容を設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。松江市社会福祉協議会や介護施設等の意見を取り入れ、学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。専門的な実践力、応用力を身につけるためにカリキュラムが組まれている。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか。	目標達成に向け充分協議された内容であり、体系的に編成されている。	目標達成レベルに対して教育時間および学習指導内容が適切であるかどうかは常に教務で話し合われている。また、これらについては毎年見直し、職員会議で協議決定している。 企業、団体から組織された教育課程編成委員会の意見を取り入れ、カリキュラムの作成、改善をしている。	
カリキュラムを編成する体制は明確になっているか。	明確になっている。	教務部において協議し、校長が承認している。	
カリキュラムを定期的に見直しているか。	定期的に見直している。	時代ニーズ、学校の目標などとあっているかどうかなど毎年検討している。見直しがある場合は、職員会議で協議決定し、より効果的なカリキュラム編成となるようにしている。 年に2回の教育課程編成委員会を開催し、カリキュラムの見直しを行っている。また、公開授業を開催し、その都度、企業、団体からの意見を取り入れ、改善に努めている。	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	実施している。	業界開催の研修へ参加している。職場体験に定期的に教員を派遣して、カリキュラムや授業に反映させている。	より実践的な実習施設になるよう努め、教材も揃えている。カリキュラム、教案に反映させるよう、行っている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、2年次、4年次に実務実習をとりいれ、業界の最新の技術、知識等を学んでいる。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。事前・事後指導、テーマをまとめ発表する等行っている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	1年次及び2年次に、提携している保育園、認定こども園、施設等での保育実習を体系的に位置づけ、実施している。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。事前・事後指導、テーマをまとめ発表する等行っている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	1年次・2年次に、提携している介護施設等での介護実習を体系的に位置づけ、実施している。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。事前・事後指導、テーマをまとめ発表する等行っている。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに国土交通省による指定科目、本校独自科目を置いている。また、時間数においては、より多く設定している。また、業界ニーズに即した一般教養も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに厚生労働省の規定により設定している。時間数においては、より多く設定している。また、業界ニーズに即した本校独自科目も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに厚生労働省の規定により設定している。時間数においては、より多く設定している。また、業界ニーズに即した本校独自科目も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか。	作成されている。	各回の授業内容や具体的な指示が明記された教案もシラバスと併用して作成し授業で使用している。	2020年度からの学習指導要領の改訂に伴い、学びの連続性にも配慮し、一人一人の社会的・職業的自立に向けた教案作成・見直しが今後必要となる。
各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか。	作成されている。	科目ごとにコマシラバスを作成している。	

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生による授業評価を実施しているか。	年に2回各科目毎に、学生による授業点検アンケートを実施している。	授業点検アンケートを実施している。結果は職員会議で報告・検討し、ホームページで公開している。学校関係者評価委員会でも、結果について意見をいただき改善に努めている。	課題は特に無いが、現状維持も含め、さらにより状態となるよう今後も努力を続けていく。2013年度より、就職先となる企業の方々にも授業を公開し、意見をいただいている。
授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか。	体制がある。	教員研修のなかに、模擬授業の実施、実際の授業の参観などがある。そこで授業方法についての評価を行っている。	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	取り入れている。	教育課程編成委員会があり、年2回実施。公開授業において、業界の方にも参観頂き、意見交換を行っている。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教員の専門性レベルは、業界レベルに十分に対応しているか。	業界レベルに十分対応している。	専門分野の教員は全員、本校の学科内容に該当する業界の専門分野で必要とされる資格などを有している。自動車総合学科では、実務経験の年数も、国土交通省の規定に沿った内容となっている。	さらなる向上のために、内部研修会の充実と研究活動、外部研修会へのより積極的な参加が必要である。
教員の専門性を向上させる研修を行っているか。	研修を行っている。	専門性を向上させるための外部研修会などに積極的に参加。都度、伝達研修も実施している。1人を除き、自動車整備士1級の免許を取得しており、全員の資格取得に向け、努力を続けている。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教員の専門性レベルは、業界レベルに十分に対応しているか。	業界レベルに十分対応している。	専門分野の教員は全員、本校の学科内容に該当する業界の専門分野で必要とされる資格などを有している。こども総合学科では、実務経験の年数も、厚生労働省の規定に沿った内容、レベルとなっている。	
教員の専門性を向上させる研修を行っているか。	研修を行っている。	専門性を向上させるための外部研修会などに積極的に参加。都度、伝達研修も実施している。各自担当専門科目の他、現場のニーズにあわせ、学科にあった資格を取得できるよう研修に行き、努力を続けている。	さらなる向上のために、内部研修会の充実と研究活動、外部研修会へのより積極的な参加が必要である。

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教員の専門性レベルは、業界レベルに十分に対応しているか。	業界レベルに十分対応している。	専門分野の教員は全員、本校の学科内容に該当する業界の専門分野で必要とされる資格などを有している。介護福祉士学科では、実務経験の年数も、厚生労働省の規定に沿った内容、レベルとなっている。	
教員の専門性を向上させる研修を行っているか。	研修を行っている。	専門性を向上させるための外部研修会などに積極的に参加。都度、伝達研修も実施している。各自担当専門科目の他、現場のニーズにあわせ、学科にあった資格を取得できるよう研修に行き、努力を続けていく。	さらなる向上のために、内部研修会をより充実させ、研究活動の他、外部研修会へのより積極的な参加が必要である。

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格など）を備えた教員を確保しているか。	教員確保をしている。	学科授業にあたっては、国土交通省及び厚生労働省の規定に沿った資格保持者及び経験者を教員として確保している。	
教員の専門性を適宜把握し、評価しているか。	把握・評価している。	学生が実施する授業点検アンケートにおいて授業評価をしている。専門性についても把握しているが、これにとどまらず専門性を広げるための自己研鑽も奨励。	
教員の教授力（インストラクションスキル）を適宜把握し、評価しているか。	把握、評価している。	学生が実施する授業点検アンケートを参考にしながら適性を評価するとともに、授業参観などにより教授力の把握と評価を実施。必要があれば、学科内や職員会議で指導方法など協議検討している。	
教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる研修を行っているか。	研修内容を年間で決定し、実行している。	職員研修によって、授業内容や、教員として必要な資質を高めるよう努めている。教授力に関しての外部研修会などにも参加し、その都度、伝達研修も実施している。	
教員間で協業しているか。	協業している。	各科目はシラバスと教案に沿って授業を実施。そのため、改善点などが発生した場合は、該当全教員で検討、改訂し実施している。また、全教職員が協業に努めている。	
関連分野における業界などとの連携において優れた教員（本務・兼務・サービス）を確保するマネジメントが行われているか。	行われている。	関連団体に加盟して情報収集を行い、優れた教員の確保に努めている。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
非常勤講師の採用基準は明確か	明確である。	実務経験や現場に即した知識・技能などを十分に備えた人材を採用している。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
非常勤講師の採用基準は明確か	明確である。	厚生労働省の基準に準じた人材を採用している。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
非常勤講師の採用基準は明確か。	明確である。	実務経験や現場に即した知識・技能などを十分に備えた人材を採用している。	

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	明確になっている。	コースごとに、成績評価基準、単位数を決定し、それらに準じて実施している。成績評価基準などについては、学生・保護者にも入学時に伝えている。ホームページにも公開している。	
他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか。	明確な基準がある。	こども総合学科では、姫路大学並びに豊岡短期大学と教育連携しているため、連携先の示す基準に沿って単位互換している。2015年度から幼稚園教諭免許取得については選択制。	

3-17 資格取得の指導体制があるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか。	明確に定められている。	目標とする取得資格に関しては、全て授業カリキュラムに取り入れている。このカリキュラムに関しては、学生・保護者にも入学時に伝えている。ホームページにも公開している。	
目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか。	資格取得のための教育内容になっている。	資格取得のための履修時間数を示す授業時間数表やシラバスに沿って、テキストなどを使い授業を進めている。授業内小テストで不合格の場合など補習を実施。また、受験会場について、本校で可能な資格も多く受験環境にも配慮している。	学生の学力向上に向け、授業の指導内容と補習の見直しと改善が常に必要である。
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	ある。	資格試験日に合わせカリキュラムを構成している。加えて、国家試験対策等の補習を実施。	

基準 4 教育成果

4-18 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか。	図られている。	本校創立以来、就職斡旋希望者に対する就職率は 100% である。求人数などに関するデータを随時把握し、学生支援会議及び職員会議で就職活動に関して常に協議検討している。教員と就職担当者が共に求人獲得のため動いている。就職活動に関する授業、面接練習なども実施している。 企業・法人ガイダンスを毎年、卒業前年の夏休み前に開催しスムーズな就職活動へつなげている。2 級コースは 1 年次末に、1 級コースは 3 年次末に、大半の学生の就職先が決定し、全員の就職内定を例年達成している。	自動車整備士の求人は自動車業界の動向に左右されるため、求人の獲得数が重要であると思われる。就職実績のある企業にとどまらず、新規開拓にも力を入れ、全教職員一丸となって就職活動支援に取り組んでいく。新たに、留学生の就職支援も行っていく。

4-18 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか。	図られている。	求人数などに関するデータを随時把握し、学生支援会議及び職員会議で就職活動に関して常に協議検討している。教員と就職担当者が共に求人獲得のため動いている。就職活動に関する授業、面接練習なども実施している。 企業・法人ガイダンスを毎年、卒業前年の夏休み前に開催しスムーズな就職活動へつなげている。保育園、幼稚園、認定こども園、施設へのボランティア活動、企業・法人訪問など、早期から積極的な就職活動を行っている。	保育士不足という社会状況から求人数は確保されると推測されるが、一方で、改正認定こども園法に伴い、業界では保育教諭の確保へ移行しており、「保育士資格」と「幼稚園教諭免許状」の併有を求める求人が増えている。「保育士資格」のみで正規職員として就労できる求人の確保に向け、学校として各園に働きかけを行う。就職実績のある法人にとどまらず、新規開拓にも力を入れ、全教職員一丸となって就職活動支援に取り組んでいく。

4-18 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか。	図られている。	求人数などに関するデータを随時把握し、学生支援会議及び職員会議で就職活動に関して常に協議検討し、教員と就職担当者が共に求人獲得のため動き、就職活動に関する授業、面接練習なども実施している。 企業・法人ガイダンスを毎年、卒業前年の夏休み前に開催しスムーズな就職活動へつなげている。 施設へのボランティア活動、企業・法人訪問など、早期から積極的な就職活動を行っている。	介護福祉士不足という社会状況から求人数は確保されると推測されるが、求人の獲得に加えて就職先の新規開拓にも力を入れ、今後も全教職員一丸となって就職活動支援に取り組んでいく。

4-18 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	年度ごとに就職先のデータを作成している。また、就職活動に関する企業訪問や受験先などのデータも作成し学校全体で共有把握している。	

4-19 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
資格取得率の向上が図られているか。	図られている。	検定未取得者には補習などを行い、資格が取得できるまで挑戦させている。取得率の低い科目については、授業内容の見直しも随時行うようにしている。	全員合格とならなかった。 全員が資格取得できるよう授業内容と学習支援を常に検討する必要がある。
資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	明確に把握している。	取得に関するデータは常に職員会議で報告され、協議・検討している。	

4-20 退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
退学率の低減が図られているか。	図られている。	学納金支払いが原因で退学者が出ないように対策をとっている。2010年度より分納制度を導入（条件あり）。本校独自の奨学金制度もある。また、担任との面談を年に複数回実施し、学生支援センターで学校生活の相談を随時受けることができるなど退学防止の体制がある。	課題は特に無いが、現状維持も含め、退学者がゼロに近くなるよう学生から早期に相談を受け付けるなど今後も努力を続けていく。
入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	入学願書、退学届けの保管・管理。	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	行われている。	本校職員が高校へ出向いて、進路講話（進学または就職）や、職業別講話、面接指導等を行っている。	

4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	把握している。	就職担当教員が企業訪問を実施し、卒業生の勤務状況などを把握している。	社会的な活躍については、今後引き続いて活躍状況の把握に努める。
卒業生の例として特筆すべきものがあるか。	評価されているものがある。	就職先で実施された技能コンテストにおいて自動車総合学科の卒業生が上位入賞を果たした実績がある。また、サービスマネージャーや工場長に登用されている卒業生もいる。	課題は特に無いが、今後、より多くの卒業生の技術が評価されるよう学校として力を注いでいく。

卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校教育活動の改善に活用されているか。	活用されている。	教育課程編成委員には、卒業生の就職先である企業や法人の方がいる。また、学生のインターンシップ、教育実習での教員巡回の際などに卒業後の様子について情報収集できる。必要であれば、教育活動の見直しなどを図るようにしている。	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	整備されている。	長期高度人材育成コース等の社会人入試を行っている。専門実践教育訓練給付制度を取り入れている。	

基準 5 学生支援

5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	就職斡旋希望者全員が就職しているため有効に機能していると判断できる。	
就職に関する説明会を実施しているか。	実施している。	企業・法人ガイダンスを実施し、各企業・法人の人事担当者などにより直接説明を受けている。	
就職に関する学生個別相談を実施しているか。	実施している。	1年時に、学生全員を対象とした各担任との面談を実施している。また、5月、1月には保護者面談も実施。その後は、必要に応じて専任教員が個別相談を実施している。	大半の学生が自主的に就職活動を行っているが、就職活動に消極的な学生に対しては今まで以上に声かけを行い、きめ細かな支援に努めていく。
就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか。	実施している。	授業カリキュラムで就職活動の時間を設け、履歴書作成などを行っている。必要に応じて放課後などに専任教員が個別に指導している。	

5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	いつでも担任に相談できる体制をとっている。また、スクールカウンセラーを配置。	
学生相談室を開設しているか。	特にしていない。	個別支援室を設け、年間計画に沿ってスクールカウンセラーが面談を実施している。学生支援センター職員も常時相談に応じる体制である。	
学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか。	いる。	就職に関しては、2級キャリアコンサルタント技能士(国家資格)・キャリアサポーター(専修学校教育振興会認定)を配置。また、学生相談に応じるスクールカウンセラーを配置。	
留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	機能している。	担任及び留学生支援センター職員で相談に応じる体制を整えている。	2018年度よりこの体制の整備が必要。実践中である。

5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか。	整備、機能している。	学業支援授業料減免制度や特待奨学生制度（学費一部免除制度）、学納金分納制度などがある。学生へは入学時や入学後に関連資料を配付。説明会を実施している。また、入学時のみならず進級時にも利用できる特待奨学生制度を導入している。	
奨学金制度が整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	時期に応じて奨学金制度の告知、説明会を実施している。利用者あり。	
学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか。	授業料の（一部）免除制度あり。分納制度は、2010年度入学生より実施（ただし規定あり）奨学金制度あり。	特待奨学生は授業料（一部）給付。日本学生支援機構奨学生制度の利用者に対しての分納制度を導入。本校独自の奨学金制度あり。	

5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか。	支援体制がある。	定期健康診断の実施。保健室の設置。AED設置。玄関と各教室に消毒液常備。毎朝検温あり。	
学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか。	特に設けていないが、学生の体調不良時には相談窓口があり、授業担当者や担任と連携して対応している。	学校事務局（現総務部）において学生健康診断の管理を行っている。学生支援センターを窓口にし、学生の健康上必要であれば保護者に連絡するなどしている。	
学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか。	専門医はいないが、車で数分のところに総合病院があるため、必要であれば直ちに搬送するよう体制をつくっている。	学生支援センターを窓口にし、左記の対応をしている。2015年度1月より看護師が常務。	

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
スポーツクラブ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか。	校内施設を利用するクラブ活動は支援体制がある。ボランティア活動については、有効に機能している。	クラブ活動の支援の他、ボランティア活動は、単位制とし、自主的な参加を促進している。また、献血を実施。学校全体で取り組んでおり、松江ライオンズクラブと連携して実施。	

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
スポーツクラブ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか。	校内施設を利用するクラブ活動は支援体制がある。ボランティア活動については、有効に機能している。	クラブ活動の支援の他、ボランティア活動は、単位制とし、自主的な参加を促進している。また、献血の他、地域イベントの手伝いなども実施。献血は年間スケジュールを組み学校全体で取り組んでおり、松江ライオンズクラブと連携して実施。	

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
スポーツクラブ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか。	校内施設を利用するクラブ活動は支援体制がある。ボランティア活動については、有効に機能している。	クラブ活動の支援の他、ボランティア活動は、単位制とし、自主的な参加を促進している。また、献血を実施。年間スケジュールを組み学校全体で取り組んでおり、松江ライオンズクラブと連携して実施。	

5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。	行われている。	学生寮（学生会館）がある。寮での生活方法などについて指導・助言している。	

5-28 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
保護者と適切に連携しているか。	連携している。	毎年5月・1月には保護者面談を実施している。また、就職や学校生活に関してなど、必要に応じて適切に連絡をとりあうようにしている。	

5-29 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
同窓会が組織化され、活発な活動をしているか。	同窓会組織化の準備中であるが、活動はない。	卒業生数が相当数になるまで活動予定が無いため。	卒業生数を考慮して、同窓会を開催する。
卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか。	仕事に関する事や資格取得などのフォローアップをしている。	来校する卒業生に対して、教員が時間を設け対応している。	

基準 6 教育環境

6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	本校での教育上必要であると思われる施設・設備を整備している。	資格取得など学習に必要な実習教材を確保している。また、設備や機器に関しては、最新の技術が学べるよう新しいものを導入している。	
施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか。	整備されている。	専門業者によるメンテナンス、セキュリティ管理を行っている。 施設・設備に破損などがあった場合は、補修もしくは再購入などで対応。また、点検が必要な施設に関しては定期的に点検を行っている。	
施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか。	更新されている。	カリキュラムに沿って必要な設備を購入するなど、計画的に更新している。	

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか。	自動車総合学科でインターンシップを導入している。外部企業と十分な連携をとりながら実施している。 学外実習としては、2017年度より研修旅行を2年次に実施している。サーキットにおけるレース見学等充実した研修内容となっている。	企業との締結のもと、2年次と4年次にインターンシップを実施している。また、研修後、学生はレポート等を作成して提出しているため、実施の成果を確認することができる。	各活動を通して、学習の意欲向上や最新技術の情報収集につながるように、より充実した内容になるよう今後も協議していく。

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか。	こども総合学科では、保育実習を行っている。学外実習としては、2017年度より研修旅行を2年次に実施している。宝塚歌劇の観劇等、充実した研修内容となっている。	各施設と提携し、保育実習は1年次及び2年次に実施している。また、2年生から1年生への実習報告会も行っている。学外実習（研修）に関しては、学習の意欲向上や、保育現場で活かす表現技術などを体感するうえで役立つ内容となっている。参加した学生は全員、研修で得た情報についてのレポートを作成し学校に提出している。	

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか。	介護福祉士学科では、介護実習を行っている。学外実習としては、2017年度より研修旅行を2年次に実施している。宝塚歌劇の観劇等、充実した研修内容となっている。	介護実習については1・2年次に実施している。学外実習（研修）に関しては、参加した学生はレポートを作成し学校に提出している。	

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか。	実績と教育効果を確認している。	自動車総合学科はインターンシップ、こども総合学科は保育実習並びに教育実習、介護福祉士学科では介護実習に関しての実習記録やレポート作成により、十分な効果があることを確認している。	

6-32 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
防災に対する体制は整備されているか。	整備されている。	災害時における行動マニュアルを作成し学生、教職員に伝えている。 消防に関する計画や災害時における具体的な行動マニュアルなどを整備している。	避難訓練実施の事前事後で改善点を挙げ、全教職員で情報の共有をする。
災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか。	伝えられている。	機器の取扱については十分に注意を払うよう指導している。	
実習時等の事故防止の体制は十分か。	十分とっている。	全学科、機器の取扱や作業方法など、事故が起こらないよう注意喚起をしている。特に、自動車総合学科では、細心の注意を払うと共に実習前に安全に関する注意事項を斉唱している。	現状維持も含め、今後、事故が起こらないよう努力を続けていく。
防災訓練を実施しているか。	実施できている。	消防署立会いの下、教職員・学生参加で総合（通報・避難・消火）訓練を実施している。2019年度は、6月6日に実施。	防災訓練を毎年実施できるよう消防署と連携をとるようにしていく。

基準 7 学生の募集と受け入れ

7-33 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生募集活動は、適正に行われているか。	適正に行われている。	誇大表現は避け、教育内容紹介などに関しては真実性と明瞭性に配慮したものとなっている。	本校の魅力はもとより、自動車整備士、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士の職業魅力も伝えていけるよう今後も努力を続けていく。
学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか。	概ね、志望者・保護者等の立場に立ったものとなっている。	学校側が伝えたい事項、求める側が知りたい事項の伝え方として、表現方法を再考し、わかりやすさを重視した。	引き続き、求める側のニーズに快く情報が届くような学校案内を作成していくよう、表現内容と方法について検討していく。
志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか。	体制がある。	専門の部署を設置し、直通のフリーダイヤルやメールアドレスなどを整備。問合せ・相談には専任職員が対応している。	SNSを使った体制の強化
募集定員を満たす募集活動となっているか。	十分ではない。	こども総合学科、介護福祉士学科は、満たしていない。	本校の認知度がまだ低い地域もあるため、より細やかな募集活動が必要である。各学科とも、本校の特色や魅力を出せるよう改善を図っていく。

7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか。	ほぼ伝えられているが、まだ認知度は高められると思われる。	就職実績に関して、就職率や就職先データ、内定獲得者の紹介書類（高等学校掲示用）、卒業生の活躍をまとめた冊子などを学校パンフレットとともに配付している。資格取得に関しても同様である。一部ホームページにも公開している。	本校の就職、資格取得などのデータに加え、卒業生の活躍等、教育成果については今後、今以上に広く、また正確に伝えるよう検討が必要。
卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか。	持っていない。	卒業生の活躍の教育成果はあるが、その活躍を募集活動で紹介するに留まっている。	卒業生の活躍の教育成果を学生募集で紹介し、その成果を把握していくために、今後、検討が必要。

7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。	行われている。	入学選考方法の基準を示し、募集要項に記載している。	
入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか。	正確に把握している。	毎年、入試に関するデータを作成し、学生募集の際の資料として使用している。	

7-36 学納金は妥当なものとなっているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか。	妥当なものとなっている。	教育内容や関連経費、保護者・学生の経済的状況などを考慮し妥当なものとしている。 全国同分野の専門学校と比較してみても、通算額は低く設定している。また、設備・教材が充実した環境の中、1級指導員が多数在籍していることなど、学習環境からみても、学納金は妥当なものといえる。	

7-36 学納金は妥当なものとなっているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか。	妥当なものとなっている。	教育内容や関連経費、保護者・学生の経済的状況などを考慮した妥当なものとしている。 全国同分野の専門学校と比較してみても、通算額は低く設定している。また、学習環境が整っていることや、保育士資格に加え幼稚園教諭の免許が取得できるなど学習環境からみても、学納金は妥当なものといえる。	

7-36 学納金は妥当なものとなっているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか。	妥当なものとなっている。	教育内容や関連経費、保護者・学生の経済的状況などを考慮した妥当なものとして設定している。全国同分野の専門学校と比較してみても、通算額は低く設定している。また、現場で使用されている最新の福祉機器が揃っているという学習環境からみても、学納金は妥当なものといえる。	

7-36 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか。	正確に把握している。	学納金に関する情報は、毎年正確に把握・記録している。	

基準 8 財務

8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	ほぼ安定しているといえる。	本校に限らず今後の経済状況の変化や少子化による影響も出てくると思われる。	他校との差別化を図るとともに、地域のニーズに応えるべく、改善していく。
主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか。	把握している。	財務については監査会、評議員会及び理事会において報告・承認を得ている。	

8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか。	妥当なものとなっている。	予算、補正予算をたて、計画に基づいて運営を行っている。	
予算は計画に従って妥当に執行されているか。	妥当に執行されている。	評議員会及び理事会において報告、承認を得ている。	

8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
財務について会計監査が適正におこなわれているか。	適正におこなわれている。	監査会の実施。	
会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか。	妥当である。	年間スケジュールを立てて実行している。	

8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか。	できている。	ホームページに公開している。	
私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか。			

基準 9 法令等の遵守

9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか。	適正な運営がなされている。	県・国に関係書類を提出し運営許可を得ている。また、法令や設置基準に対しては、設置基準者が把握し遵守している。	
法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか。	実施している。	法令遵守については、学生は授業内で学習。教職員に対しては法令や基準の変更などが発生する都度、伝達し実施している。	

9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	対策がとられている。	個人情報の記載されたファイルなどは、指定された部屋で管理している。	
個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか。	行っている。	教職員は個人情報保護についての意識をもち業務にあっている。学生に対してはビジネス教育の授業で実施している。	

9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか。	定期的実施。改善に努めている。	職員会議にはかり、全教職員が自己点検・自己評価に参加。問題点の改善に努めている。学校関係者評価委員による評価も活用している。	
自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか。	確立している。	自己点検・自己評価は、学校運営状況および学校運営向上のための取り組みなどを、より多くの人に理解してもらうことを目的としている。	
自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか。	伝わっている。	H Pで公開することにより、その意図は学内外問わず多くの関係者に伝わっていると推測される。	
自己点検・自己評価結果は公開しているか。	している。	H Pにて公開。	

基準 10 社会貢献

10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか（自動車総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか。	取り組んでいる。	環境に配慮された自動車開発が進むなど自動車業界の動向は、社会問題との関係が深い。環境保全のために必要な技術を持つ自動車整備士を育成している。	

10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか。	取り組んでいる。	現状から、保育士不足が想定されるため、本校では即戦力となる保育士を育成するよう、学校全体で取り組んでいる。	

10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか（介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか。	取り組んでいる。	現状から、介護福祉士不足が想定されるため、本校では即戦力となる介護福祉士を育成するよう、学校全体で取り組んでいる。	

10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか。	図っている。	教育機関や企業・団体等と連携をとりながら学生の資格取得や技術習得の機会を設けている。	
学校の施設・設備を開放するなど地域社会と連携しているか。	していない。		今後、授業が実施されない時期等に施設開放する。2018年度は、中学校PTA及び民間サークルへの施設開放を実施。
重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓発活動を行っているか。	行っている。	重要な社会問題が発生した場合、各担任がホームルームや授業内で取り上げるなどしている。	

10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	奨励、支援、把握している。	学校で、献血運動を推進している。献血運動は、松江ライオンズクラブと連携し実施している。また、ボランティア活動を自由選択の科目として設け、事前事後指導を実施し、単位制をとっている。学生の主体的な参加を促進している。	
学生のボランティア活動の状況を把握しているか。	把握している。	個人で参加のボランティア活動では、報告書の提出を義務付けている。また、就職につながるボランティア活動を支援している。	